

## 《題目》管理職になった時の先輩の言葉 その2

さて、私が大変苦勞した2名に共通するのは、どのような指導をしようと、私の思いや考え方を、全く理解してくれないことでした。こう書くと『あなたの指導方法に問題があった』と思われるでしょう。でも、困り果てた私は、上司に相談し、直属の係長や課長に、包み隠さず説明し、彼らに指導などを任せた時期もありました。この方法で、私の考え方を理解してくれた部下もいましたが、この2人は『何をやっても』解決しませんでした。

この2人のように、何を試みても改善してくれない人がいることを否定しませんが、ブリストルで言われた『どのような部下であれ、「あいつはダメだ」とか「あいつには能力が無い」と言ったとしたら、それは「私には管理職の能力がありません」と自分で言っていることだ』という管理職に対する考え方は、今でも正しいと思います。世界中に管理職という肩書を持っている人は、とんでもない数いることでしょう。管理職(Manager)の役割は、1つの組織として、最大の成果を上げる為に、どのように部下を使い、それぞれに何をさせるか、だと思います。自分の意見に従わない部下を「ダメ社員」とか、能率の上がらない部下を「アホ社員」と上司に説明して、自分の保身を図る管理職が多いのではありませんか？ 今、あなたが最も信頼している優秀社員が、将来、別の仕事をするようになった時、「ダメ社員」「アホ社員」になるかもしれませんよ。また、その優秀社員が他部署に配転になったとたんに、あなたの言うことを全く無視するようになるかもしれません。